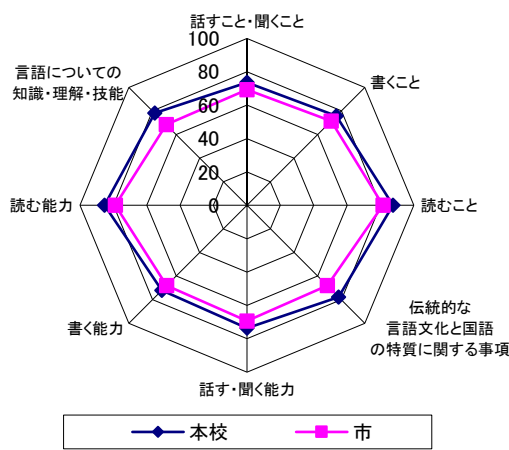


宇都宮市立西小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	73.6	69.3	73.4
	書くこと	75.7	71.3	74.6
	読むこと	87.5	81.5	81.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.8	68.1	71.6
観点別	話す・聞く能力	73.6	69.3	73.4
	書く能力	72.1	68.1	71.7
	読む能力	85.3	78.8	79.0
	言語についての知識・理解・技能	78.2	68.4	72.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

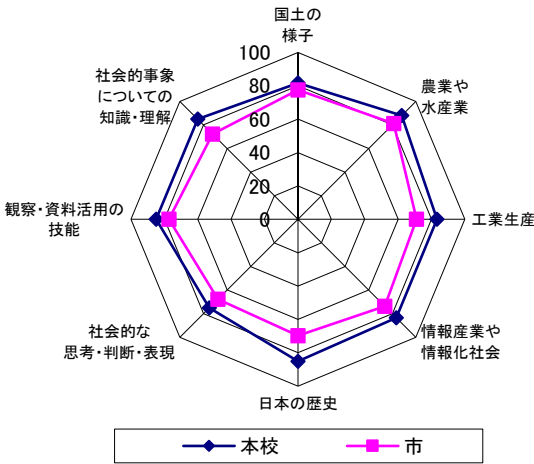
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○司会者の役割を理解して、計画的に話し合おうとすることができるかについての問いには、全員が正答している。 ●話し手の意図を考えながら、話し合いの内容を聞き取ることについては、やや課題が見られる。	・話している人の方を見て最後まで聞く、何を伝えたいのか考えながら聞く、自分の意見と比べながら聞くなど、聞き方の基本を、毎日の授業を通して指導していく。
書くこと	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○グラフの内容を読み取って文章に適切に書き表すことや、2段落構成で文章を書くことについては、市の平均を大きく上回っている。 ●指定された長さで文を書くことに課題が見られる。	・読後の感想や一言日記など、書く活動の機会を増やし、文章表現力を高めていく。 ・他の教科の授業でも、自分の考えをまとめるときには、目的や意図に応じ、伝えたいことを明確にしていこう習慣づけていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○場面の描写を読み取ることや文章の内容を的確に読み取ることについては、市の平均を上回っている。 ●場面の描写を読み取ることについては、やや課題が見られる。	・読む力を充実させるために、さまざまな作品や文章に触れる機会を増やし、読書に親しむ態度を育てるなど、読書活動の充実を図っていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○第6学年配当漢字の読みについては、ほぼ全員が正答している。 ○敬語(謙譲語・尊敬語)の使い方の理解については、市の平均を上回っている。 ●三字熟語の構成の理解に、やや課題が見られる。	・読書を通して、さまざまな熟語に触れる機会を増やすとともに、三字熟語の成り立ちについて復習をする。

宇都宮市立西小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	81.7	77.5	74.0
	農業や水産業	88.0	81.1	73.7
	工業生産	83.3	71.1	73.5
	情報産業や情報化社会	83.3	73.7	63.2
	日本の歴史	85.1	69.7	73.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	75.0	67.7	63.1
	観察・資料活用 of 技能	84.9	77.3	75.5
	社会的な事象についての知識・理解	84.9	72.2	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

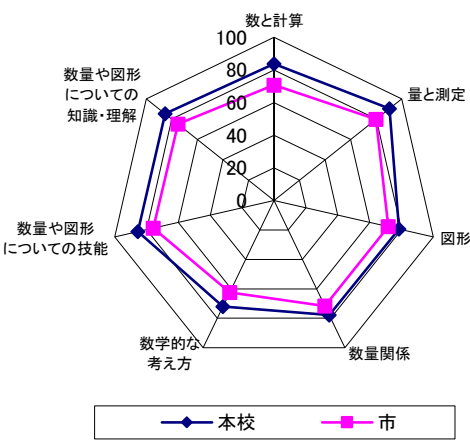
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	全体的な校内の平均正答率は、市の結果よりも約4ポイント上回っている。 ○日本の気候の様子について資料から読み取る問題については、正答率が9割を超えていることから、よく理解できていることがわかる。 ●日本の周囲の国の国旗については、2割の児童が誤答であったため、地理的な課題がやや見られる。	・社会科に限らず、外国について学習する際には、地図帳を開いて、日頃から位置や国旗等を知る機会を増やしていく。
農業や水産業	全体的な校内の平均正答率は、市の結果よりも約7ポイント上回っている。 ○米の生産がさかんな地域を資料から読み取る問題については、全員が正答することができた。また、日本の食料自給率についての問いにも、全員が正答することができた。 ●日本の食料生産がかかえる課題については、4割近くが誤答であったため、やや理解不足がわかる。	・日常的に、ニュース等で取り上げられている時事的な問題等も授業で触れ、みんなで考えられるように指導の充実を図る。
工業生産	全体的な校内の平均正答率は、市の結果よりも約12ポイント上回っている。 ○工業製品についての問題では、市の平均を大きく上回っているため、理解できている児童が多いことがわかる。 ●工業地帯・工業地域の立地について考える問題では、市の平均よりは上回っているが、誤答の児童もいる。	・授業等を通して、資料から読み取れることをよく考え、そこから推測できることを説明する活動を増やしていく。
情報産業や情報化社会	全体的な校内の平均正答率は、市の結果よりも約10ポイント上回っている。 ○マスメディアの種類に関する問題では、市の平均を8ポイント上回っている。生活環境の中にある多くのメディア媒体に触れる機会が多くあると考えられる。	・正答率は高く、内容については理解されているが、情報化が進むことによって便利になる部分と、そこに潜む危険について、しっかり指導していく。
日本の歴史	全体的な校内の平均正答率は、市の結果よりも約15ポイント上回っている。 ○江戸時代の偉人である伊能忠敬に関する問題については、全員が正答することができた。また、どの時代についての問題でも、平均して正答率が9割近いため、よく理解できていることがわかる。	・歴史上における重要な事実をしっかりと覚え、つながりをもって起きていたことをよく理解できるようにする。また、授業のまとめ等を活用して、歴史上の出来事について、キーワードとなる言葉を中心に、関係している人物も含めて説明できるようにする。

宇都宮市立西小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	83.7	70.8	65.9
	量と測定	90.3	79.9	77.0
	図形	78.5	71.8	74.6
	数量関係	77.8	71.7	73.4
観点別	数学的な考え方	72.0	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	85.5	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	85.3	75.1	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

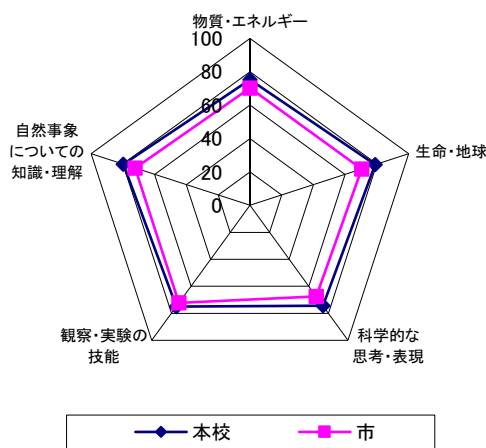
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○分数×整数(約分なし)の計算、分数÷分数(約分あり)の計算は、全員が正答している。 ○どの項目もすべて市の平均を上回っているが、特に図を使って、分数の除法の文章問題に合った式を選ぶ問題や小数第一位×小数第一位の計算や真分数+真分数で、分母どうしをかけて通分をする計算において、大きく市の平均を上回っている。	・小数・分数を中心に、計算ドリルや復習プリントを活用し、計算技能の定着を、更に図っていく。
量と測定	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○直方体を組み合わせた形の体積を求める問題や円と正方形を組み合わせた図形の面積を求める式から、その求め方を示した図を選ぶ問題には、全員が正答している。 ●図から面積と人数の割合を求め、最も混んでいるシートを選ぶことにおいては、やや課題がみられる。	・割合の学習内容を再度指導すると共に、計算ドリルや復習プリントを活用し、内容の理解を促していく。 ・実体験に基づいた問題を解くことにより、割合の概念を明確にしていくようにする。
図形	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○どの項目もすべて市の平均を上回っているが、三角形の内角の和が180°であることを理解し、与えられた三角形の1つの外角を求める問題や三角柱の展開図を組み立てたときに重なる頂点を問う問題で、大きく市の平均を上回っている。	・多角形の内角の和の求め方や線対称について復習をしたり、計算ドリルや復習プリントを活用したりして内容の定着化を、更に図っていく。
数量関係	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○どの項目もすべて市の平均を上回っているが、文字を使った式が表す場面を選ぶ問題や2つの文字を使って表された式について、一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題において、大きく市の平均を上回っている。 ●もとにする量が同じとき、割合が大きいほうが比べる量が多くなることを、説明する問題に、課題がみられる。	・割合の学習内容を再度指導すると共に、理解が深められるようにプリントを活用して定着を図っていく。

宇都宮市立西小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	75.3	70.3	69.0
	生命・地球	78.9	70.4	70.2
観点別	科学的な思考・表現	74.5	67.5	66.4
	観察・実験の技能	75.0	72.3	68.9
	自然事象についての知識・理解	79.7	72.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	全体的な校内の平均正答率は、市の結果よりも5ポイント上回っている。 ○物の燃え方の学習における「空気中の気体の体積の割合について」は、全員が正答することができ、しっかりと理解できていることがわかる。 ●電流のはたらきについては、校内の正答率が市の正答率を下回っている。電流の向きの変化については復習が必要である。	・今後も各単元の学習では、実感を伴う理解ができるようにする。 ・問題の意味を理解するための読解力と、実験後の振り返りの充実を図る。
生命・地球	全体的な校内の平均正答率は、市の結果よりも約9ポイント上回っている。 ○生物と環境の学習における「食物連鎖」についての問題では、全員が正答することができ、知識が身に付いていることがわかる。 ●植物の発芽と成長の学習における「発芽と温度の関係」を考える問題では、市よりも低い正答率である。	・普段の学習から、「実験結果をもとにして、考察を書く」という習慣を身に付けさせるようにする。

宇都宮市立西小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の確実な習得	算数においては、3年生以上の学年でTTや少人数指導による習熟度別学習を取り入れ、学級の実態や個に応じた授業を行っている。また、計算におけるスピードと正確性の向上については、朝の計算ストレッチを定期的に行っている。さらに、個別指導が効果的と思われる児童へ、担任以外の教師が指導する「パワーアップタイム」を設け、学習内容の確実な定着に努めている。 漢字の読み書きについては、单元ごとの漢字ミニテストを実施し、漢字力の確実な定着が図れるよう指導している。 また、自分自身の課題意識をもって自主的に学習したり、日々の学習習慣を身に付けたりしていけるようにするため、繰り返し実践できる漢字ドリル、計算ドリルを活用し指導に取り組んでいる。	6年生の学力検査においては、すべての教科において市・国の平均を上回った。6学年においては基礎基本の定着が図れている。 「宿題はきちんとやっているか」については、すべての学年で市の平均を大きく上回り、90%台以上の高い肯定的回答であった。毎日の学習習慣については、宿題に取り組むことを通して、ほぼすべての児童に身に付いていると考えられる。しかし、「新しく習ったことは繰り返し練習しているか」の質問では、低学年で約90%以上であるが、中高学年では、約40%から80%と、ややばらつきが見られる。基礎基本の学力を確実に定着させるためには必要な学習の仕方については、取り組み方に個人差が見られる。与えられる課題のみならず、自分から進んで苦手を克服するための学習に取り組めるよう、引き続き指導していく。
めあて・課題・まとめ・振り返りを意識した授業の展開と、学習規律の構築	授業では、めあての確認、課題の把握、終末では学んだことのまとめと振り返りを行うことで、分かったことを明確にしたり、次への課題をもったりする習慣が身に付くようにしている。また、「西小よい子の学習の約束」を活用し、学習準備、姿勢、話の聞き方・話し方、ノートの取り方等を具体的に示しながら、継続して指導している。	「学校の授業がどの程度わかるか」の質問については、3・4年生で100%、5・6年においても90%以上の肯定的回答であった。授業でのめあて確認や振り返りについては習慣となり、進んで取り組むことができていく。今後も引き続き、発問を明確にし、十分な活動時間を確保し、まとめと振り返りの充実を図る授業を実践していく。 また、「西小よい子の学習のきまり」を児童に意識させ、学習に向かう姿勢を育てていく。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・基礎基本の定着は図られている児童が多数を占めるが、まだまだ学年による苦手傾向及び個人差が大きい。学校の限られた時間だけでなく、家庭学習においてもしっかり復習する時間を確保することで、既習内容の定着を図っていき、日頃の授業における理解度をさらに高めていくことが必要と思われる。
- ・授業のまとめ、振り返りについては、自分の言葉でまとめることで、学習したことの理解を深めていけるようにする。また、そのための活動時間を授業内に確保していき、自立解決の場面を増やしていく必要がある。さらに、自分の考えを分かりやすく書いたり、説明したりできるように、友だち同士の話し合いの場も意図的に設けていき、自分の考えを表現できるように指導していく。
- ・各学力検査を通して分析した結果、「書く」力については学年による個人差も大きく、全体的に苦手な傾向にあると考えられる。書く力の習得については、自分の考えを書いたり、わかったことをキーワードを使ってまとめたりするなど、自分の言葉で書く活動を日々の授業に位置付け、書くことを習慣化していきながら苦手意識をなくしていけるよう指導していく。特に、学年ごとの「書く」単元を示されているめあてを明確にし、具体的な文章表現を用いながら、発達段階に応じて書く指導を進めていく。
- ・授業での理解度は全学年で高い傾向にあるが、一方で学習への意欲の低下や苦手意識を感じている児童も多いことから、授業の内容が子どもたちの「生きた」学力として定着できていない面が考えられる。既習内容については、授業の場のみの理解にとどまることなく、学力として確実に定着できるよう、ドリルや練習問題等に繰り返し取り組ませていく。また、家庭と連携しながら、日常生活と学習内容が関連している場面を想起させ、生きた知識として学習内容が理解できるように努めていき、学習への興味・関心を高めさせていきたい。さらに、学校と家庭が子どもたちの日ごろの学習のがんばりの様子についてよく褒め、励ましていくことで、自分から進んで学習に取り組む意識が高められるよう、家庭学習ががんばり週間などの取り組みを継続し、家庭学習の充実を図っていく。